

アカデミック・ジャパニーズを考える—教材作成の試み

『日本語表現集』『アカデミック・ジャパニーズ』を例に

佐々木瑞枝（武蔵野大学）

要旨

本報告は従来、日本語のコミュニケーションの観点から比較的なおざりにされてきた動詞、形容詞、形式名詞を教材化するにあたっての、「教材化へのアプローチ」を示したものである。アルクより出版された筆者が監修の『アカデミック・ジャパニーズ 日本語表現ハンドブックシリーズ』より、動詞、形容詞の再分類の試みについて記し、また形式名詞をキャンパス・ライフの中で使う試みについて述べたものである。

キーワード アカデミック・ジャパニーズの観点からの教材作成、コミュニケーション能力
動詞の分類、形容詞の再分類、キャンパス・ライフの中での形式名詞

目次

第一章 日本語の能力とは

- 1-1 コミュニケーション能力
- 1-2 学習者主体の授業
- 1-3 話す — 話す目的は何か。相手はだれか。どんな場で
- 1-4 聞く — 相手は誰か。相手の主張に賛成か反対か、同感するのか

第二章 アカデミックジャパニーズを考える

2-1 動詞の分類・説明とアカデミック・ジャパニーズ

2-2 動詞分類の試み

■人と人との関係を表す動詞

■心の中を表す動詞

■思考・判断を表す動詞

■社会生活を表す動詞

■動作を表す動詞

■働き掛けを表す動詞

■変化を表す動詞

■状態を表す動詞

2-3 全体の構成

2-4 一覧表と記号の見方

2-5 3グループの動詞、「漢語+する」「外来語+する」

2-5-1 「漢語+する」動詞

2-5-2 3グループ「カタカナ語+する」動詞

第三章 聴読解の要素、「予測する」を例に

3-1 「予測力」を伸ばすための工夫

3-2 英文による解説一予測力を伸ばすために

Format and Usage of This Book

第四章 アカデミック・ジャパニーズ 形容詞の再分類

4-1 評価するための形容詞

4-2 感情を表す形容詞

4-4 カタカナを用いた形容詞

4-5 形容詞を分類する際の見出し語や記号の必要性

第五章 形式名詞を会話文の中でどう教材にするか

5-1 教材の構成

5-2 16の場面と形式名詞

5-3 「話し言葉」を教材にする場合の注意

参考文献

資料

はじめに

日本語・日本文化を指導する際に求められる日本語の教師の能力の一つに教材の作成能力があげられる。特に、アカデミックな場面で使用されるための教材には、次の点に配慮して作成する必要がある。

- 1 大学で学ぶ留学生にはどのようなニーズがあるのか。
- 2 既成の教材を応用して作成することもできるが、その場合教材の分析・評価を行う必要がある。

○いつ発行された教材かを見る。

- ・刻々と変化する日本語の話し言葉だが、大学生の話し言葉の変化に注目する必要がある。
- ・男女の会話に不自然なところはないか
- ・教授法は作成された時代に影響を受ける場合が多い。機関や個人、共同執筆者についても知っておく方がよい。

○教材を作成した著者のバックグラウンドを把握する

- 3 学習のニーズが多様な場合を想定する。

専門性、学習目的、学習期間、時間、学習場所、年齢、母語、学習スタイル、文化的背景など

○単一の教材では対応できない。

○補完する教材を選択する必要がある。

○補完する教材の組み合わせを考える

- 4 リソースとして使える教材は何かを考える。

例—コミュニケーション能力の養成を考える場合

「会話の日本語」「会話の日本語ドリル&タスク」(ジャパントイムズ)

「日本語ことはじめ」(北星堂書店)

「日本事情—素材集」(北星堂書店) など

- 5 教える人は(組織か、チームティーチングか、個人か、)

- 6 教える場所はどこか
- 7 教える人の日本語の技能—教わる人の日本語の技能はどのくらいか
- 8 シラバスを考える 構造シラバス、場面シラバなど
- 9 テキストの一課の構成は？
目標、動機付け、コミュニケーション場面、文型、例文、会話、タスク、ドリル、ロールプレー、プロジェクトワーク、
- 10 難易度を考えて作成する
- 11 どんな語彙を選択するのか（専門語彙、キャンパス・ジャパニーズの扱い方）
- 12 文法説明は何語で入れるのか
- 13 教師用指導書は作成するのか
- 14 教科書の体裁を考える
サイズ、デザイン、値段、など
- 15 効果的に教える方法が配慮されているか、

以上のことを踏まえて、『日本語表現ハンドブックシリーズ アカデミック・ジャパニーズ』は筆者の監修で、多くの共著者の協力を得て、アルク出版より、2001年以下の10冊が出版されている。

- 1 すぐわかる上級表現
- 2 すぐに使える上級動詞
- 3 予測して読む聴読解
- 4 違いを覚える上級形容詞
- 5 よく使うカタカナ語
- 6 会話で覚える形式名詞
- 7 日常会話で使う会話表現
- 8 表現を豊かにする副詞
- 9 例文で学ぶ助動詞
- 10 自然に使える文末表現

それぞれに、従来にはない、オリジナルなアカデミック・ジャパニーズへの視点を盛り込んだつもりであるが、この報告書には特に動詞と形容詞の分類法について報告したいと考えている。

また、『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』（2001年 ジャパン・タイムズ）では、「日本留学試験」の読解、記述、聴読解へのアプローチに向けた教材を3人の共著者ととも出版している。この報告では、特に読解、記述、聴読解の能力開発に向けた取り組みについて再考したい。

第一章 日本語の能力とは

1-1 コミュニケーション能力

「日本語の能力」ということでまず第一に強調したいのは、試験ではなかなか測りにくい「コミュニケーション能力」についてである。「日本留学試験」を改めて見てみると、

文法力を試す問題にしても、聴解力を試す問題にしても、すべて四つの選択肢の中から一つを選び出すという、あまりに「受動的」な学生をつくり出すための「装置」になってしまっていることが分かる。「日本留学試験」は、「日本語能力試験」にはない「聴読解試験」（資料やグラフを読み、テープなどを聴いて、問題に答える）が加わった。しかし、残念ながら、これも4択問題であり、受動的であることには変わりはない。自分の意見を書くということで、「記述式問題」が加わったが、記述式の得点は、200点満点の試験の点数には入らず、別枠で合計6点（完璧な答えがかけた場合）で主体的に意見を述べるという点が重用視されているとは言えない。

留学生たちの日本語学習が、もし、この試験に受かることが唯一の目標だったとしたら、その目標を突破して大学に入学してきた留学生たちに、「機知にとんだ受け答え」や「生き生きとした表情で、相手に自分の意見を伝えること」「相手の話を聞きながら相づちをうつ」「相手の表情や語感からそれが賛成意見なのか反対意見なのかを判断する」「思い切った提案を自分のことばでしてみる」などを期待するのは過酷な要求というものであり、「生きた日本語能力」が身に付くようなカリキュラムを組むのは、大学で日本語を教える者の役目ということになる。

1-2. 学習者主体の授業

学習者が主体となって授業が形成されるような形式が望ましい。その中で、教師はアドバイスを与える助言者の役割を演ずる。伸び伸びとした雰囲気の中で授業が展開できれば、学習者はミニドラマの中で臨機応変に相手のことばに答えたり、自分でストーリーを発展させるなどの「ちょっとした冒険」も経験できる。これは何も留学生に限ったことではない。むしろ、日本人の若者たちにこそ必要な「日本語能力」だとも言えるのではないだろうか。

1-3 話す — 話す目的は何か。相手はだれか。どんな場で

▼説明する

全く状況を知らない相手に、「どうしたんですか?」と言われ、相手に分かるように説明するというのは難しいものだ。

実際の会話の場面を想定し練習してみると、その難しさが分かる。

「仲の良かった友達と最近、口をきいていない」 「どうしたんですか?」

「夜中に公園に一人でいたら、『どうしたんですか?』とお巡りさんにきかれた」

▼描写する

シンポジウムの会場を探している。とても良い会場が見つかった。会場の様子を同僚にどう描写するのか。

▼主張する

日本人に欠けているコミュニケーション能力の一つである。あまり「主張しすぎる」と相手から敬遠される。

「主張すること」はマイナス要素だから「主張しない方がいい」といった価値観が存在するために、日本人は誤解を受けていると知りながら、堂々と主張することを遠慮してしまう気風がある。しかし、留学生たちには、主張することも指導しておきたい。大家さ

んに家賃や敷金のことで、主張したりと、必要なコミュニケーション能力であることは確かである。

▼説得する

説得には幾つかのルールがある。ジェフリー・N・リーチは『語用論』の中で「丁寧さの原理」をまとめているが、その原理は「説得すること」に当てはめて考えることも可能だ。

(ここでの自己は「説得する側」、他者は「説得される側」と考える)

- ①寛大性の原則—自己に対する利益を最小限にせよ。
- ②共感の原則—自己と他者との反感を最小限にせよ。
- ③気配りの原則—他者に対する負担を最小限にせよ。
- ④合意の原則—自己と他者の意見の相違を最小限にせよ。

大学生活において、相手を説得しなければならない場面は非常に多い。大学の日本語クラスの中で、「説得のタスク」を設定し、上記のリーチの「丁寧さの原理」を指導することもコミュニケーション能力の向上に役立つのではないだろうか。

▼スピーチ・あいさつをする

場面を考えて、型にはまらない表現を工夫し、ユーモアをこめて話す。相手を考えて適切な話題を選ぶ。一定時間に一定の内容を話す。(これは講演などにも通じる)

話すときは、速度に注意する。親しい間柄の場合は多少速く話しても相手は理解できるが、説明、描写、主張、説得、スピーチ・あいさつなどでは、日常会話よりゆっくり話すことが必要である。音量に気を付ける、説得も声高に話すと「強迫」になりかねない。相手が自分の意見を言えるように(自分のスピーチが理解されているか確かめるために)、「間」をおく。これらも「日本語の能力」の大切な部分である。

1-4 聞く — 相手は誰か。相手の主張に賛成か反対か、同感するのか

▼相手を尊敬する態度で聞く

▼落ち着いた自然な態度で聞く (特に相手の「主張」、「説得」を聞く場合)

▼相手の話を批判する態度をつくる (誤った情報により相手が判断を下そうとしている場面や、一方的な思い込みによる場面で)

▼自分の立場をはっきりさせながら聞く (日本人は聞いていますという合図に「はい」と言い、相手に同意していると思われがちである)

水谷修氏は相づちの「はい」に関して以下のように述べている(注6)。

「はい」という形は「相づち」の表現の中で最も典型的なものであるが、その意味について適切な理解を日本の学習者に与えておくことが重要である。

「はい」=yes という形で「はい」の意味が与えられていると、……むしろ相づちは相手の発話を受け止めている、どうぞ話を進めてください、という意志の表示であって、相手の発言内容に対する賛成・同意として用いられるのは、一定の文脈条件によると考えるべきだといえる。

▼メモをする習慣を身に付ける

人と人が相互理解するためのコミュニケーション活動は大切な言語能力であるが、それをどう養成していくかについては、まだ課題が多い。

有元秀文氏は小中学生のスピーチ原稿の分析を通して、説得力のある文章に共通する要因を二つ挙げている（注7）。

①率直な自分の思いを、自らの体験に基づいて自分の言葉で語っていること

②積極的に関心を持って、情報を広く深く収集していること

私もこの二点には共感するところが多い。形式が整っていても、人の心に訴えない表現は、本当の意味でのコミュニケーション活動とは言えないからだ。今後も感受性・表現力豊かな学生を育てていきたいと願っている。

李光五氏は言語の文脈を理解したり語彙アクセスをすることに関して Marster-Wilson& Tyler（注8）の「オンライン交互作用モデル」を引用し、次のように述べている（注9）。

文理解はさまざまな知識源の同時並列的な働きとそれらの間の完全な交互作用によって行われる。知識源というのは人間の持っている言語に関する、あるいは言語作用に関する、または世界に関するいろいろな水準の知識のことである。

例えば、言語の音韻に関する知識源、統語規則に関する知識源、意味解釈に関する知識源、世界に関する知識源などがある。（広い意味ではこれらをモジュールと呼ぶことができるかもしれない）。

人力の感覚的な分析が始まると共に、このような知識源の中から人力文の処理に係のある知識が、即時に、多数呼び出され交互作用する。— こうした情報は文脈に対して選択され、評価され、精巧化されるからである。

聞く能力は、蓄積されて、話す能力へとつながっている。そして、それこそが、コミュニケーション能力と言えるのかもしれない。

第二章 アカデミックジャパニーズを考える

2-1 動詞の分類・説明とアカデミック・ジャパニーズ

留学生たちが日本語を学ぶ時に手にするのは、国語辞典である。最近では電子辞書が必修である。国語辞書は漢字と送り仮名を示し、語義の説明があり、最近では慣用句や例文が加わったり、類語との比較も書かれている場合が多い。

動詞を例にとってみよう。

「敬う」・・・うやまふ（動ワ五）（うやの動詞化）人や人物を尊いものと考え、それを行動や態度に表す。あがめる。尊敬する。「長上を一・う」「釈迦の恩足跡石に写しおき一・ひて／仏足石歌」可能うやまえる（『大辞林』第二版 三省堂）

留学生にとって、ここに記してあることの何パーセントが理解でき、また必要だろう。アカデミック・ジャパニーズとしてレポートや論文を書いたり、口頭発表する際に、上記のような説明が役に立つのだろうか。

① 動詞自体がどんな場面で使われるのか、

- ② その動詞はプラス概念を持つのか、それともマイナス概念を持つのか、
- ③ 書き言葉に使われることが多いのか、話し言葉として使われることが多いのか、
- ④ 改まった表現としてフォーマルな場面で使われることが多いのか、いわゆる「かたい表現」として学術的なことを論じるときに使われることが多いのか

これらの分類・説明が動詞には最低限必要なのではないだろうか。留学生の書く論文には、上記の①から④の把握ができていないことが多く、特に動詞の誤用が目立つ。

動詞を下記のように分類し、そこに上記の①-④を記号の形で付すことで、留学生たちのアカデミック・ジャパニーズの「使用語彙」としての教材作成を試みた。

2-2 動詞分類の試み

日本語能力試験の1級に出題される動詞を選び、下記のような分類を試みた。

■人と人との関係を表す動詞、■心の中を表す動詞、■思考・判断を表す動詞、■社会生活を表す動詞、■動作を表す動詞、■働き掛けを表す動詞、■変化を表す動詞、状態を表す動詞

■人と人との関係を表す動詞

人間関係を表す動詞です。動作を行う人（主体）とその相手との間に立場や年齢などの上下関係があるかないか、相手に対する気持ちが好意的かそうでないか、といった観点から分けてあります。表の左側から右側へと、好意的な動詞から、からかいや反発の気持ちを持つ動詞へ、さらには反好意的な動詞へと並べました。最後は、「争い」に至ります。

(+)

(-)



敬う 慕う 頼る 甘える ねだる	励ます いたわる 救う 助ける かばう	もてなす 許す 任す 任せる 交わる 交える	おだてる 冷やかす あざ笑う	けなす 責める とがめる ののしる	逆らう 背く 欺く	こじれる こじらせる もめる 争う 戦う
↑ ◎	◎ ↓	◎→	◆→	◆→	↑ ◆→	◆⇔
8 ページ	9 ページ	10 ページ	11 ページ	12 ページ	13 ページ	14 ページ

※この分類は一つの目安であり、時と場合によって異なります。

■心の中を表す動詞

人の心の中を表す動詞です。対象となる相手や物事に対して好意的な感情を表す動詞、自身の心の中が明るく積極的な状態である動詞、心の中が未来に向かっていもの、気持ち

が現在や過去に向かっているものという順に並べました。右は、反好意的な感情を表す動詞です。



尊ぶ 重んじる 恋する 好む	祝う 誇る 興じる 凝る 意気込む	祈る 願う 望む 志す 抱く	心掛ける 案じる 顧みる 恥じらう こだわる	迷う 焦る 疑う あきれられる	耐える 悩む 懲りる 悲しむ	嘆く 恐れ入る 苦しむ 憎む 恐れる
◎	◎	◎ ○	○	◆	◆	◆
16 ページ	17 ページ	18 ページ	19 ページ	20 ページ	21 ページ	22 ページ

■ 思考・判断を表す動詞

思考・判断に関する動詞です。その言葉自体が思考・判断行為を表すものと、広く思考の結果を表す動詞も含めました。対象への姿勢や結果が好意的なものから、好意・反好意的には関係ないもの、そして、対象への姿勢が反好意的なものへと並べました。

例えば、悪いことを計画するという「謀る」は反好意的なものとして最後に配しました。



学ぶ 悟る 努める 徹する 認める	かける 凝らす 察する 見計らう 見通す	踏まえる 占う 味わう 省みる 解く	図る 問う 確かめる 控える 見なす	見合わせる 危ぶむ 誤る 断る 謀る
◎	○	○	○	◆
24 ページ	25 ページ	26 ページ	27 ページ	28 ページ

■ 社会生活を表す動詞

冠婚葬祭・職業・日常生活など、社会生活におけるさまざまな場面で使われる動詞です。相手や物事に対してプラスイメージを持って使われるものから、プラス・マイナスがないもの、マイナスイメージを持って使われるもの順に並べました。

(+)

(-)



祭る 拝む 参る 捧げる 納める	恵む 恵まれる 施す 授ける 雇う 養う	営む 催す 備える 設ける 構える	携わる 務める 担う 赴く	手掛ける 取り扱う 取り次ぐ 問い合わせる 募る	交わす 預ける 預かる 従う 従える 率いる	定める 裁く しつける 戒める	禁じる 取り締まる 捕らえる 阻む 差し支える
↑ ◎→	◎ ↓	○	○	○→	↑ ○→ ↓	○→ ↓	◆→ ↓
30 ページ	32 ページ	34 ページ	36 ページ	38 ページ	40 ページ	42 ページ	44 ページ
贈る 招く 親しむ 応じる 明かす	承る 受け継ぐ 継ぐ 授かる	臨む 踏み切る こぎ着ける 果たす 遂げる	伝える 告げる 報じる 語る 説く	治める 防ぐ 免れる 収める	稼ぐ もうける 費やす 賄う	辞める 避ける ねらう 訴える 抑える	侵す 犯す 切り捨てる 葬る
◎→	↓ ○	○	○→ ↓	○→ ↓	○	↑ ○→ ↓	◆→ ↓
31 ページ	33 ページ	35 ページ	37 ページ	39 ページ	41 ページ	43 ページ	45 ページ

■動作を表す動詞

動作を表す動詞を「自身の動作」と「対象のある動作」に分けました。具体的な軌作、例えば「目覚める」にプラス・マイナスの意味はなくても、抽象的な意味で使われる「～に目覚める」となると、プラスの意味が加わります。

自身の動作

対象のある動作

(+)

(-) (+)

(-)



目覚める 向く 弾む 歩む 駆ける	抜け出す 脱する くぐる 震える 突っ張る	磨く 積む 結ぶ つなぐ	掲げる 据える 抱く 負う 抱える	注ぐ 詰める 埋める 掘る 囲む	巻く 挟む ねじる 曲げる	つく 刻む 割る 破る
◎ ○	○	◎→ ○→	○→	○→	○→	○→
47 ページ	49 ページ	51 ページ	53 ページ	5 ページ	57 ページ	59 ページ
舞う 叫ぶ 反る 振り返る 巡る	うつむく 転ぶ 転がる もがく 暴れる	耕す 繕う 抜く 抜かす 当てる よける	示す 指す 記す 描く 演じる	見渡す 探る 捜す 探す 追う 捕まえる	こする 震わせる 揺さぶる 倒す	はたく むしる はぐ ほうる ばらまく
○	○ ◆	○→	○→	○→	○→	○→ ◆→
48 ページ	50 ページ	52 ページ	54 ページ	56 ページ	58 ページ	60 ページ

■働き掛けを表す動詞

対象への働き掛けを表す動詞です。具体的な働き掛けを表すものと、抽象的な働き掛けを表すものがあります。状況によって好意的な意味や反好意的な意味が加わることもあります。



整える まとめる 練る 鍛える 治す	挑む 試みる 試す 求める 向かう	組む かかわる 組み込む 含める	働き掛ける 取り計らう 仕掛ける 諮る 迫る	表す 照らす 延ばす あてる	離す 外す 覆す 遮る	そらす ごまかす 漏らす 翻す 脅かす
◎→	↑ ○→	○↔ ○→	○→	○→	○→ ◆→	◆→
62 ページ	64 ページ	66 ページ	68 ページ	70 ページ	72 ページ	74 ページ

与える 支える 勧める 誘う 用いる	添える 補う 込める 仕込む	制する 下す 負かす 仕切る	寄せる もたらす 伴う 操る	省く 限る 残す 戻す	逃す 見逃す 見落とす 障る	強いる ねじ伏せる 襲う 害する 殺す
◎→	○→	○→ ↓	○→	○→	○→ ◆→	◆→
63 ページ	65 ページ	67 ページ	69 ページ	71 ページ	73 ページ	75 ページ

■変化を表す動詞

人や物が「ある状態から変化すること」と「ある状態に変化したこと」を表す動詞です。プラスの意味で使われるものから、マイナスの意味で使われるものへと並べてあります(自動詞と他動詞が列記してあるもの：他動詞は動作や働き掛けを表す動詞ですが、一緒に覚えてたほうが効果的なのでここに入れてあります)。

(+)

(-)



栄える 実る 満ちる 満たす 改まる 改める	芽生える 伸びる 伸ばす 緩む 緩める 溶ける 溶かす	越える 越す 上回る 増える 増やす たまる ためる	転じる 変わる 変える 替わる 替える 及ぶ	かさむ はれる ゆがむ たるむ 鈍る	縮む 縮める 詰まる 途切れる 途絶える	化ける 傷付く 傷付ける かすむ 汚れる 汚す	破れる 裂ける 裂く 荒れる 荒らす 壊れる 壊す 崩れる 崩す
77 ページ	79 ページ	81 ページ	83 ページ	85 ページ	87 ページ	89 ページ	91 ページ
解ける はかどる 進む 進める 育つ 育てる	澄む 効く 固まる 固める 差し掛かる	膨れる 積もる 重なる 重ねる 盛り上がる	現れる 現す 染まる 染める 混じる 混ぜる 減る 減らす	乾く はげる 湿る 凍る 凍える	陥る 失う 乱れる 揺らぐ	衰える 老ける 老いる ぼける	枯れる 尽きる 廃れる 絶える 滅びる 滅ぼす
78 ページ	80 ページ	82 ページ	84 ページ	86 ページ	88 ページ	90 ページ	92 ページ

■状態を表す動詞

人や物の状態を表すときに使われる動詞です。その状態を好意的に見て使われるものから、好意的・反好意的には関係なく使われるもの、反好意的に見て使われるものへと並べてあります。「様子」を表すので、「～ている」と一緒に使われることが多いことに気を付けてください。

(+)

(-)



そびえる 優れる 勝る 備わる	有する 含む 値する 占める	貫く 連なる 沿う 即する 面する	隔たる 隔てる 揺れる 食い違う 反する 滞る	劣る 欠ける 痛む 病む
94 ページ	96 ページ	98 ページ	100 ページ	102 ページ
映える 光る さえる 潤う	成り立つ 保つ 収まる 持ちこたえる はまる	帯びる 浮かぶ 浮く 紛れる 粘る 沈む	こもる 群がる 散らかる ありふれる	
95 ページ	97 ページ	99 ページ	101 ページ	

2-3 全体の構成

全体の構成は次のように考えた。

- ① よく使われる動詞を、意味や使い方によって分類する。
 - ② 項目ごとに一覧表と例文を示す。
 - ③ 辞書的な使い方もできるように、巻末に五十音順索引を付ける。
- 各章の構成と使い方は、留学生たちの使いやすさを第一義に以下のようにした。

A 一覧表 として掲載する

- ①各章の初めに、その章で扱っている動詞を一覧表にする。
- ② 意味や使い方の似ている動詞をまとめて並べる。
※ 動詞の意味や使い方に含まれる、プラスやマイナスのイメージも含む。

B 見出し語〔動詞グループ〕意味

- ① 見出し語のあとに、動詞の分類を「五段、一段、カ変、サ変」のような国語の辞

書の分類ではなく、1・2・3グループの区別と意味を示した。

例：〔1 自〕 = 1 グループ・自動詞 〔2 他〕 = 2 グループ・他動詞

主体の持つ思考や イメージがプラス（好意的）	プラス・マイナスの 意味を含まない	主体の持つ思考や イメージがマイナス （反好意的）
---------------------------	----------------------	---------------------------------

C 例文

①それぞれの動詞の代表的な使い方を示した例文である。

②理解の助けとなるように英訳を付けた。

③意味が複数あるものや自動詞と他動詞があるものは、使い方の違いを例文で確認できるようにした。

D 漢字の表記と振り仮名

漢字で表記してあるのは常用漢字と新聞で使われている漢字とし、読み方の確認のために、見出し語にはすべて振り仮名を付けた。意味と例文は、教育漢字以外の漢字（固有名詞は除く）に振り仮名を付けた。

留学生のためのアカデミック・ジャパニーズとしての「動詞の辞典」は少なくとも上記のAからDの説明は不可欠ではないかと考える。日本人用に作成された国語辞典は、日本人にさえ懇切に記述されているとは言いがたいものも多い。

留学生が使用する「動詞の辞典」の試みは語彙数は少なくとも、学習者の声に多少なりとも答えることができたのではないかと考えている。

2-4 一覧表と記号の見方

矢印は左から右へイメージがプラス、中立、マイナスとしている。

記号の見方	
主体の持つ概念やイメージ	動作や作用の及ぶ方向
◎：プラス（好意的）	↑：上への働き掛け
○：プラス・マイナスの 意味を持たない	↓：下への働き掛け
◆：マイナス（反好意的）	→：上下関係のない働き掛け
	⇄：双方向の働き掛け

しかし、ここで示したのは一つの目安であり、両端のグループの動詞でも使われる場面によってはプラスやマイナスの意味を含まないこともありますし、記号も絶対的なものではない。

2-5 3グループの動詞、「漢語+する」「外来語+する」

これらの分類には入れなかったが、日本語の動詞には第3グループの動詞に「漢語+する」「外来語+する」が多く含まれ、それらの動詞群は特に論文を書いたり、口頭発表する際の使用頻度が高い。

2-5-1 「漢語+する」動詞

漢語に「する」を付けて3グループの動詞として使われるものの中から、特に重要なもの50語を集めた。これらの動詞は「書き言葉」に多く使われ、新聞や文献を読むときや論文を書くときに必要な動詞である。同じような意味を持つものでも、それぞれ使い方が違うので、留学生たちには、例文で確認できるよう配慮した。

発達する	奨励する	共存する	把握する	対比する
発展する	支持する	協調する	意図する	指摘する
展開する	貢献する	合意する	認識する	検討する
進展する	寄与する	許容する	確信する	分析する
促進する	擁護する	妥協する	痛感する	反応する
			共感する	反映する
104 ページ	105 ページ	106 ページ	107 ページ	108 ページ

評価する	応用する	追求する	国際化する
批評する	活用する	挑戦する	近代化する
判断する	対応する	支配する	実用化する
批判する	対処する	克服する	能率化する
抵抗する	引用する	達成する	多様化する
反抗する	採用する		
抗議する			
109 ページ	110 ページ	111 ページ	112 ページ

2-5-2 3グループ「カタカナ語+する」動詞

カタカナ語に「する」を付けて3グループ動詞として使われるものの中で、特に重要なもの20語を集めた。「書き言葉」にも「話し言葉」にも使われる。「リストラする」のようにもとの言葉が省略されたうえ、意味が異なるものもあるので、留学生たちには難しいといえる。

アピールする アプローチする アレンジする エスカレートする クリアする ケアする サポートする	シフトする セクハラする トライする ネーミングする バッシングする プッシュする ブレイクする	マークする リサイクルする リストラする リハビリする リフレッシュする ロスする
114 ページ	115 ページ	116 ページ

第三章 聴読解の要素、「予測する」を例に

3-1 「予測力」を伸ばすための工夫

語や文を聞いたり読んだりする時に重要な役割を果たす 38 の「予測の鍵となる表現」について、読解文、CD を聴く聴解文、そして「見て（読んで）聴く」聴読解文とともに示した。

例) 1. ～あげく

「～あげく」の後にプラスの展開になる場合には「+」、マイナスの展開になる場合には「-」をつけた。これらのプラス、マイナスの概念は「予測する」ために非常に重要な要素であり、留学生は往々にして、これらの表現の後に逆の予測をしてしまうことも多い。留学生のために英語の説明文も付した。

「さんざん悩んだあげく」のように、複数の言語要素から後続部分を予測する問題をあげ、4 つの例題を示した。自分で予測してから、巻末の解答を見て確かめることにより、予測能力を上げようという狙いである。

「文章を読む」では、現代日本社会に焦点をあてた内容の予測問題をあげた。テーマは表を参照。ここでは留学生は、読解力を養成しながら、同時に現代日本事情について学習することができる。

会話文や解説、スピーチなどを聴きながら、後に続く内容を予測する能力の養成は、直前の語からのみされるのではなく、それまでに使われた語や文章の流れが「予測の鍵」になるということを学んでほしいと思う。この教材にはCDを収録した。会話の速度は日本人が通常話すノーマルスピードを基本としているが、留学生がこの教材を使用する際、CDの内容が速すぎてよくわからない場合は、巻末の聴解スクリプトを読み、再度CDを聴くこともできる。「予測する」力を伸ばすための試行的な教材である。

「予測力」は「見て聴く」能力、「日本留学試験」で実施されている「聴読解能力」ではもっとも必要とされる。図やグラフ、イラストを見ながら聴くことで、「予測する」力が伸びるだけでなく、使える語句や表現のバリエーションも広がるだろう。

上記の点をふまえて、教材を作成した。巻末の資料を参考にされたい。ここに参考までに英文の解説を付しておく。

3-2 英文による解説—予測力を伸ばすために

Format and Usage of This Book

This book covers 38 essential Japanese expressions that can help you to predict what information will follow whenever you read or hear them in your daily life. Each lesson presents a single expression along with several reading/listening exercises that use the expression. The format of each lesson is described below.

Notes on Usage

Positive usage of the targeted expression (for example, あげく) is indicated with a plus sign (+), and negative usage with a minus sign (-). Having knowledge of both the positive and the negative uses of the expression is an important part of being able to predict what sort of statement will follow the word. Be sure to read the explanatory

notes in English.

Sentence Completion

These exercises challenge you to select which of four given phrases correctly follow a phrase containing the targeted expression (for example, *さんざん悩んだあげく*). Check your answers by referring to the answer key at the back of the book.

Reading Comprehension

Focused on topics related to modern Japanese society, these exercises will enhance your reading comprehension skills while providing you insight into today's Japan.

Listening Comprehension

In these exercises, you listen to a spoken passage, such as a conversation, a commentary, or a speech. As you listen, you try to guess what sort of information will follow. Instead of focusing on just the immediately preceding phrase to predict what comes next, you should learn to also examine all the preceding expressions and the overall flow of the passage to find clues that will help you to anticipate where the passage is headed. If you find a certain passage too fast to understand aurally, read the transcript at the back of the book, and then try listening to the CD again. Your ability to predict what's coming is sure to improve.

Listening while Looking at Visual Aids

You listen to oral passages while looking at visual aids, such as charts, graphs, or illustrations. These exercises will not only strengthen your predicting skills, but also add a rich variety of phrases and expressions to your vocabulary.

表1 『予測して読む聴読解』、表現と読解テーマ、聴解テーマ

	読解テーマ	聴解テーマ	
	「*」は「見て聴く」問題		
1. ~あげく	雇用	就職活動	8
2. いかなる~でも	高齢化社会	選挙演説	11
3. いかにも~でも/でも	相撲	実績と実力	14
4. いかにも	i モード決済システム*		17
5. 一度~たら	ボランティア活動*		20
6. いったい	異常気象	地球温暖化	23
7. 今から思えば	知的所有権	コピー	26
8. 今ごろになって	歴史	縄文時代	29

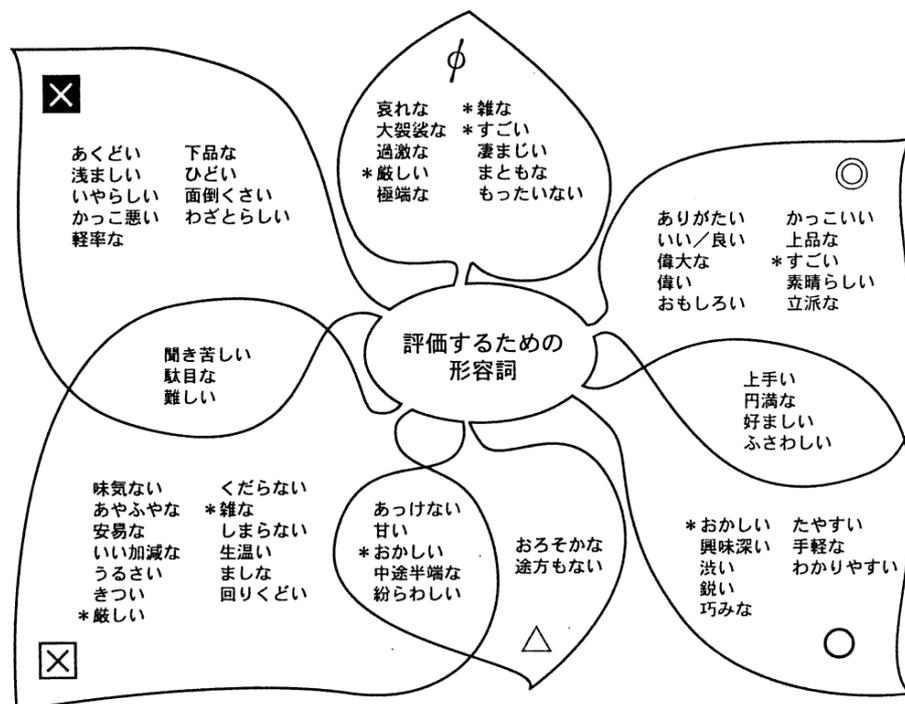
9. 今さら～たところで	森林面積*		32
10. いよいよ	株式市場	マザーズ	35
11. おそらく	野球	メジャー進出	38
12. かるうじて	子供文化	遊ぶ時間	41
13. これ以上～ば	エネルギー問題	原子力発電	44
14. さすがに～だけあって	映画	日本映画研究	47
15. さすがの～も	睡眠	睡眠不足	50
16. 少なくとも	生命倫理	臓器移植	53
17. 実をいうと	美容	男性のエステ	56
18・せっかく～からには	携帯電話	電話でインターネット	59
19. ～たうえで	広告・宣伝	オンライン・ショッピング	62
20. たかが～ぐらいで	Eメール*		65
21. ～たきり	ファッション	バザー	68
22. ちょっとした	バリアフリー社会*		71
23. ～でもあるまいし	マンガ文化	ヤングアダルト	74
24. どうしても	少子化*		77
25. とうとう	若者の事件	キレる若者	80
26. どうも	音楽	ヒーリング・ミュージック	83
27. 何一つ	旅行	青春 18 きっぷ	86
28. なんて～	内外価格差*		89
29. ～にしたがって	敬語	若者用語	92
30. ～にむけて	宇宙	国際共同開発	95
31. ～によると	食生活	ダイエット	98
32. 場合によると	遺伝子	ヒトゲノム	101
33. ～のみならず	通貨問題	通貨の急落	104
34. はたして	環境問題*		107
35. ～ぶりに	好きなスポーツ*		110
36. ～やいなや	都市問題	大都市災害	113
37. よく (も)	ゲーム	ゲームセンター	116
38. ～ぬきに	地震	災害対策	119
解答例			122

第四章 アカデミック・ジャパニーズ 形容詞の再分類

形容詞には色々な顔がある。一つの形容詞にもいくつかの意味があり、その用法も多様である。日本語のテキストで扱われている形容詞はまず、「イ形容詞」(形容詞)「ナ形容詞」(形容動詞)の中でも日常よく使われるものが選ばれ、否定形や過去形、修飾の仕方などの文型を学ばせるものが大部分である。しかし、大学でレポートや論文を書いたり、口頭発表する際に用いる、アカデミック・ジャパニーズとしての形容詞は、こうした日本語テキストで学ぶ方法では使用語彙として定着しない。新たな教材として、自分の「言いたいことがすぐ言える」ために役に立つと考えた形容詞を選び、それらの形容詞を「評価するための形容詞」「感情を表す形容詞」「人の性格や性質を表す形容詞」「カタカナを用いた形容詞」の4つの種類にまとめてみた。(資料参照)

4-1 評価するための形容詞

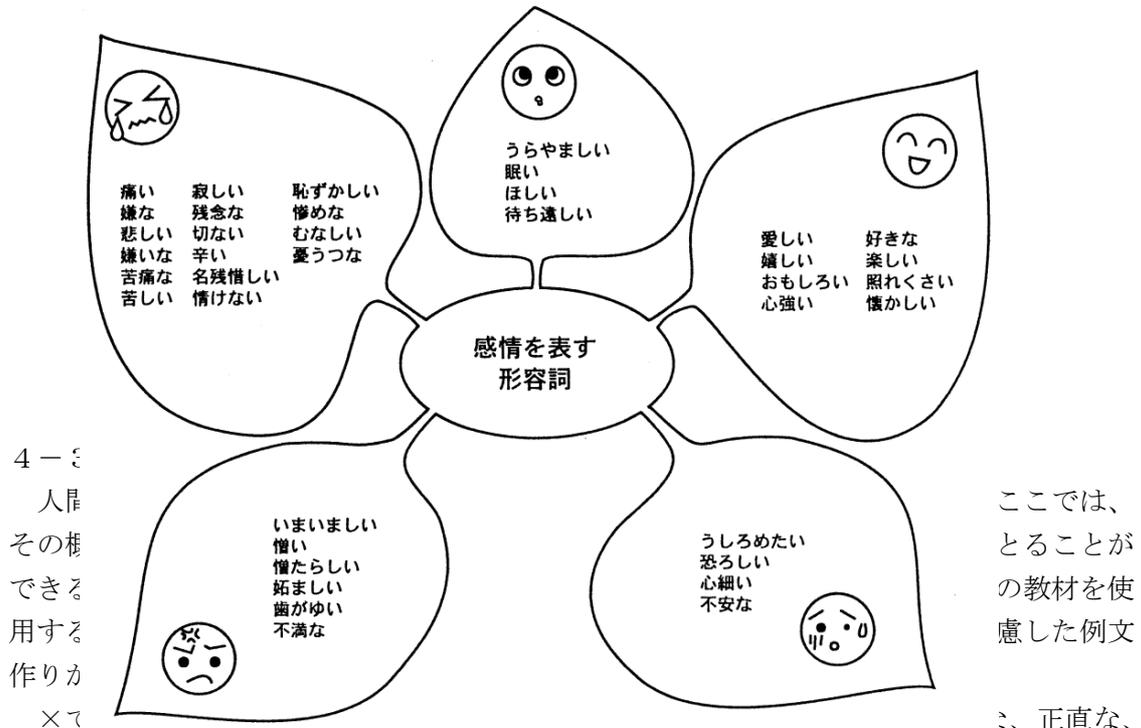
身の回りの出来事や、事物、人の行動や発言などに対して、自分の意見を述べる際に使われる形容詞である。対象への好意的な評価をするもの(◎、○)から、好意・反好意的な評価とは関係ないもの(φ)、そして反好意的な評価をするもの(△、☒、☓)を概観できるように、以下の図で示した。



4-2 感情を表す形容詞

このカテゴリには、自分の今の気持ちがどのようなものかを表す形容詞を入れた。ここでは嬉しさや楽しさを表すグループ、心配や不安を表すグループ、怒りを表すグループ、

悲しさや辛さを表すグループ、自分の願望を表すグループに分け、下の図に示しました。留学生たちは、表に添えた顔の表情からも、形容詞の表す感情を脳裏に焼き付けてくれるのではないだろうか。

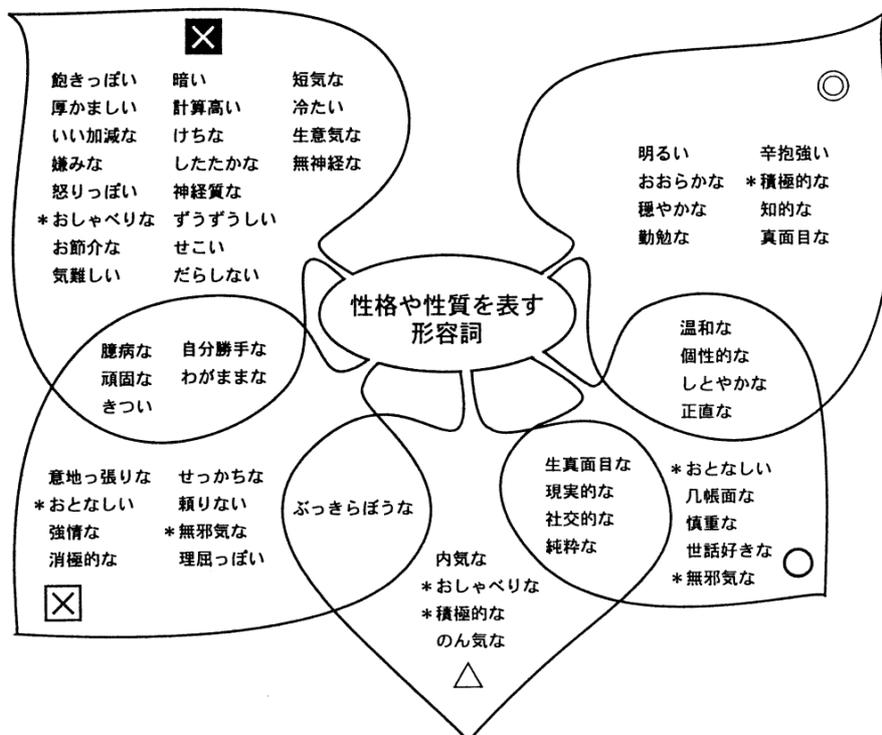


4-1
人
その
できる
用する
作りか
×

ここでは、
とることが
の教材を使
慮した例文

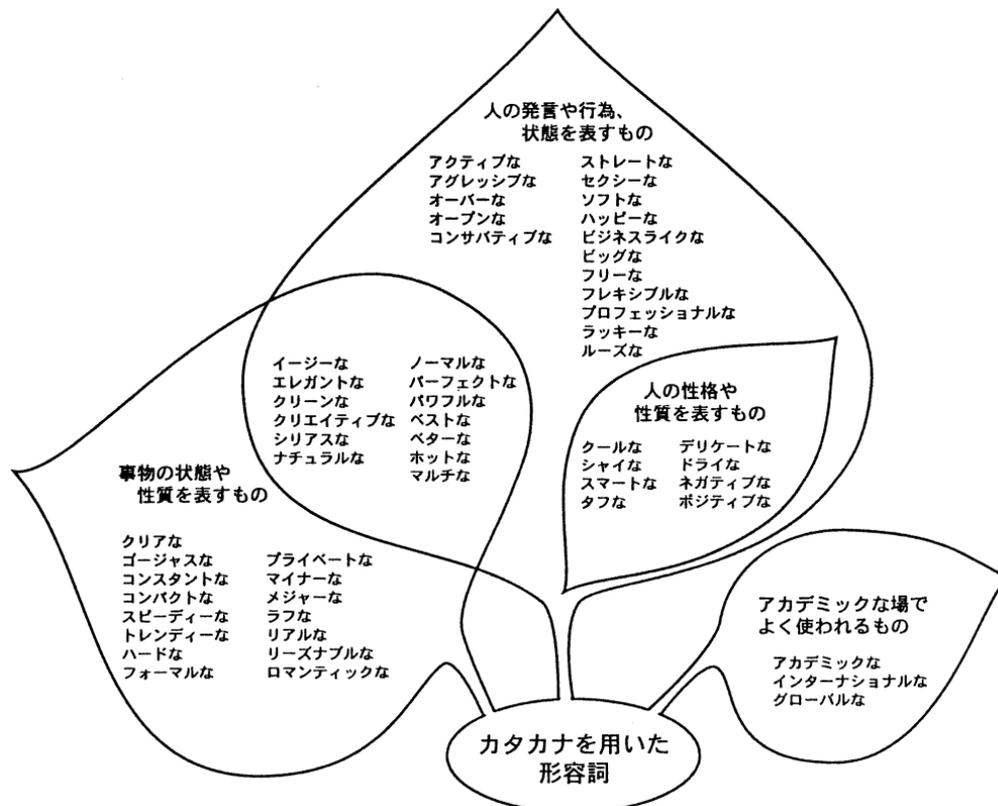
、正直な、
個性的な、温和な」などは中間のゾーンに配した。「しとやかな」はジェンダー的な要素を含み、男性に使われることはないし、また「個性的な」は場合によってはプラスになったり、マイナスになったりするからである。

○で示したものは概してプラス概念としてとらえられるもの、△はどちらかと言えばマイナス概念である。ただし「内気な」は女性に使われる場合にはプラス概念に転じることもある。(注)「*」印がついている形容詞はほかのカテゴリーと重複して提出されているものです。



4-4 カタカナを用いた形容詞

日本語の形容詞にはカタカナを用いたものが増加する傾向にある。ここでは、カタカナを用いた形容詞を「人の発言や行為、状態を表すもの」「人の性格や性質を表すもの」「事物の状態や性質を表すもの」「アカデミックな場でよく使われるもの」の四つに分類した。ここでは、カタカナを用いた形容詞を「人の発言や行為、状態を表すもの」「人の性格や性質を表すもの」「事物の状態や性質を表すもの」「アカデミックな場でよく使われるもの」の四つに分けてみました。特に「アカデミックな場面でよく使われる形容詞」は、ここでは数例しかあげていないが、専門分野によって追加する必要がある部分であると考えている。



4-5 形容詞を分類する際の見出し語や記号の必要性

教材作成の作業はある意味で、記号化することへの格闘でもある。スペースをとらずに、形容詞を分類していくために、最低限、以下の作業が必要であろう。

<記号の意味>

●見出し語の後にある記号

[i] イ形容詞 (国文法では「形容詞」)

[na] ナ形容詞 (国文法では「形容動詞」)

●例文の前にある記号

☒ マイナスイメージが非常に強い使い方

☒ マイナスイメージの使い方

△ ややマイナスイメージの使い方

- ような ように だけ というものではない……………
5. 奨学金 ことはない だけは ことは ことになっている
 ことで もの(だろう)かと思う こと ものとする……………
 6. アルバイト ことにしている というもの だけあって ものだ
 ものだから ところだ とばかり思っていた どころではない……
 7. 授業 からというもの ばかりだ ものなら ということは～ということだ
 ところで ことにする だけに だけのことはある……………
 8. 試験・レポート ように わけにはいかない ことなく ところの
 ところへ どころか だけ というものだ……………
 9. 情報収集 と(いうの)は～ことだ ようになっている はずだ はずだ
 ことになる ことにする ようだ ところだった……………
 10. キャンパスライフ ものか ようになる だけに ことだ
 と(いわん)ばかりに ものだ ものを ばかりに……………
 11. ホームステイ ようで(いて)もの ものではない(だって)～んだもの
 ようだ ものか ことか ことだろう……………
 12. 合宿旅行 ところでは というところだ ものだ ことはない
 ものでもない まで(のこと)だ ばかりだ よく(も)～ものだ…
 13. 文化祭 ということで ばかりでなく はずがない ものは
 はずだ だけ ものではない ように……………
 14. 娯楽 ものではない はずだ ものがあある だけの
 ばかりか～も はずではなかった わけがない ことなしに(は)……………
 15. 進路・資格 ことから わけだ わけだ ことになる
 ところをみると ものだ ものなら ような……………
 16. 国際交流 ことには ばかり ところで ところで
 ようだ こと ことになる ものの……………

5-3 「話し言葉」を教材にする場合の注意

日本語の初級レベルを学んだ留学生にとっては、日本人学生が使う「くだけた話し言葉」は難しく響くようだ。日本人学生が普通態で話しかけても、留学生は丁寧態で答えるという場面によく遭遇するが、それは留学生の話し方が丁寧であるということではなく、普通態の話し方を習得していないからに過ぎない。この教材では、「形式名詞」の習得に主眼をおいているが、「話し言葉で使われる表現や語彙」、「助詞の省略」「文の省略」、くだけた話し言葉で頻繁に表れる「音の変化」にも注意して教材作成を行っている。

(1) 話し言葉で使われる表現や語彙

経済概論とるの? ← 経済概論とるのですか?

大学院へ行くんだって? ← 大学院へ行くんだそうですね?

ばっかり←ばかり やっぱり←やはり ほんと←ほんとう

なんか←など ちゃんと←きちんと だって←なぜなら

(2) 省略

助詞の省略

新歓コンパ (に) 行く ご飯 (を) 食べる 席 (が) 空いている

文の省略

買っておかないと。 ← 買っておかないといけない。

聞くだけは聞いてみたら？ ← 聞くだけは聞いてみたらどうですか？

持っていったら？ ← 持っていったらどうですか？

来てもらえないかと思って。 ← 来てもらえないかと思っているんだけど、どうでしょうか。

(3) 音の変化

変化した形	もとの形	例文
って	と	面白いって言っていた←面白いと言っていた
	という	病気だったってこと←病気だったということ
	というのは	会社訪問って←会社訪問というのは
だって	でも	300円だって←300円でも
からって	からといって	見に来たからって←見に来たからといって
ん	ので	やめてしまうんで←やめてしまうので
	のです	書いたんです←書いたのです
	もの	休むもんだから←休むものだから
	ら	わかんない←わからない
ちゃう	てしまう	電話を切っちゃう←電話を切ってしまう
じゃう	でしまう	転んじゃう←転んでしまう
ちゃいけない	てはいけない	止めちゃいけない←止めてはいけない
なきゃならない	なければならない	並ばなきゃならない←並ばなければならない
そりゃ	それは	そりゃ大変だ←それは大変だ
とく	ておく	置いとく←置いておく
てる	ている	慣れてる←慣れている
でしょ	でしょう	行くでしょ←行くでしょう

※「？」の意味

「？」は本来は日本語の表記としては用いない。しかし本書では、質問文であることを表すために使っている。

借りてきてくれない？←借りてきてくれませんか。

これまで比較的なおざりにしてきて、「形式名詞」であり、日本語教師養成講座の実習科目でも取り上げられることの少ない用法だが、こうしてキャンパスライフの中の自然な会話の中で使うことにより、自然なコミュニケーション能力をつけることができるのではないかと考えている。形式名詞というと、文法的な分析が先行し、実践的な教授法の開発が遅れていた分野といえる。できるだけ「アカデミック・ジャパニーズ」の趣旨である、「留学生が必要とする場面」を考えて作成したこの教材の企画と趣旨について、簡単ではあるが報告の中に加えたものである。

注 第一章は、本報告書用に『日本語学』5月臨時増刊号1999vol.18「現代人のための日本語試験」(佐々木瑞枝)に加筆修正したもの

第二章「すぐに使える上級動詞」(アルク「日本語表現ハンドブックシリーズ」より)

監修：佐々木瑞枝/共著：升岡香代子、庄野恵子、藤尾喜代子、細井和代、片瓜弓子

第三章「予測して読む聴読解」(アルク「日本語表現ハンドブックシリーズ」より)

監修：佐々木瑞枝、共著：佐々木瑞枝、嶽肩志

第四章「違いを覚える上級形容詞」

監修：佐々木瑞枝/共著：佐々木瑞枝、渡部孝子

第五章「会話で覚える形式名詞」(アルク「日本語表現ハンドブックシリーズ」より)

監修：佐々木瑞枝/共著：渡辺晴世、小森和子、矢崎理恵、奥原淳子

参考文献

- 1 Dr.Yoriko Yamada-Bochynek 前記学会の INTERNATIONAL ISSUES / HERITAGE LEARNING Japanese as a World language と題して行われた際のハンドアウトより抜粋。
- 2 馬場良二 (1992) 「ロドリゲス 『日本大文典』 における「エレガント」について、その1」 (『熊本女子大学学術紀要』 第44巻第1号)
- 3 参考 佐々木瑞枝 (1994) 『外国語としての日本語』 (講談社現代新書)、人間関係を恩恵・先後・利害・上下・親疎・に分け場面設定を行っている。
- 4 佐々木瑞枝『留学生と見た日本語』 (筑摩書房)、「寅さん」、話し相手によって寅さんがことばや動作を使い分ける点を指摘。
- 5 G・N・リーチ/池上嘉彦・河上誓作訳 (1987) 『語用論』 (紀伊国屋書店)
- 6 水谷修 (1995) 「相づち」 (水谷修、佐々木瑞枝、細川英雄、池田裕編著『日本事情ハンドブック』大修館書店)
- 7 有元秀文・国立教育研究所国語教育研究室長 (1998) 「コミュニケーション活動としての論理的な表現指導のあり方」 (『日本語学』第17巻2号、明治書院)
- 8 Marskeb-Wilson.W.D. & Tyler.L.(1980) The temporal structure of spoken language understanding.
- 9 「単語認知における自立性と文脈依存性」 (『心理学評論』1987) より抜粋

資料

アカデミック・ジャパニーズ
日本語表現ハンドブックシリーズ①-⑩ アルク 2000年-2002年



①すぐわかる上級表現



②すぐに使える上級動詞



③予測してよむ聴読解



④違いを覚える上級形容詞



⑤よく使うカタカナ語



⑥会話で覚える形式名詞



⑦日常会話で使う慣用表現



⑧表現を豊かにする副詞



⑨例文で学ぶ助動詞



⑩自然に使える文末表現

日本語表現ハンドブックシリーズは中国でも出版されています↓



④違いを覚える上級形容詞の中国語版
「日本語形容詞精読」



⑤よく使うカタカナ語の